



背中開きベストの縫い方

いるもの

表布、接着芯、生地にあった色の糸、移動カン、ボタン

・ポリエステルツイル

化繊なので綿ツイルに比べて軽いです。

しわになりにくいです

取り扱うお店によっては同じ名称でもやわらかかったり、かたかったり質感が異なります。

硬いものはそのまま、やわらかいものは裏全面に接着芯を貼ったりして補強すると仕上がりが良くなります。

・綿ツイル

ポリエステルツイルに比べ、柔らかいですが、出来上がった服を着て長い時間座ったりするとシワが入ります。

扱いやすい生地です

一般的な手芸店でも手に入りやすい生地です。

・接着芯

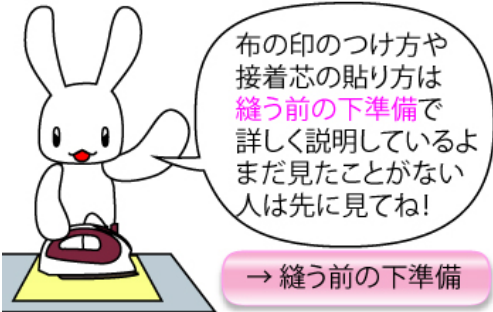
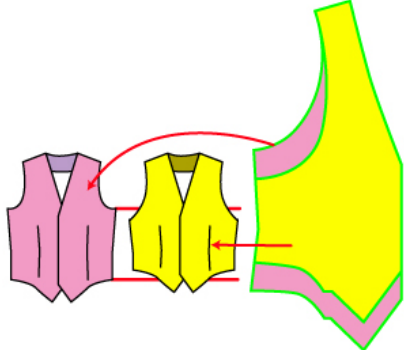
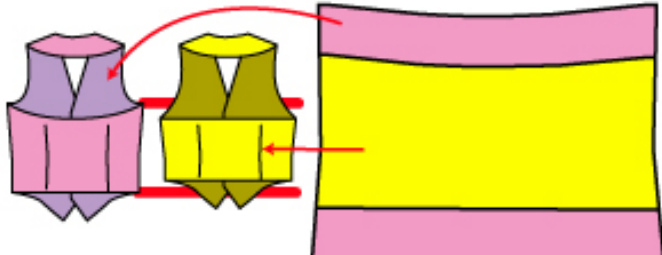
生地の厚さに合ったものをご選択ください。

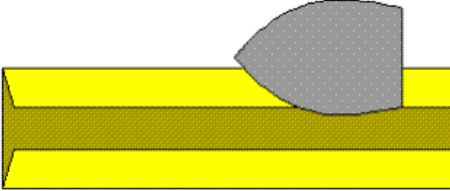

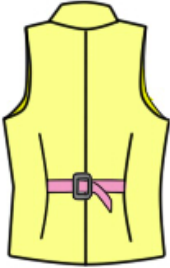





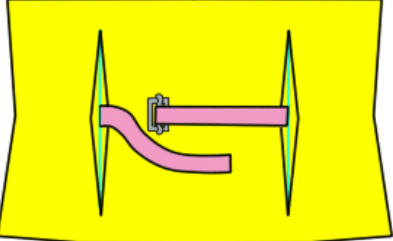
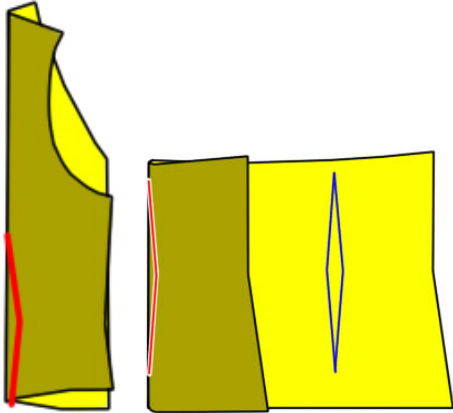
薄地に厚地用の芯を貼ると接着剤がシミになったりします。

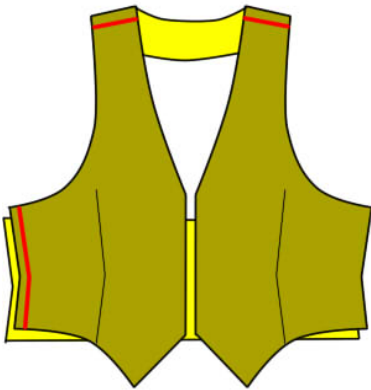
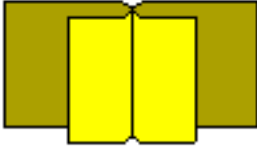
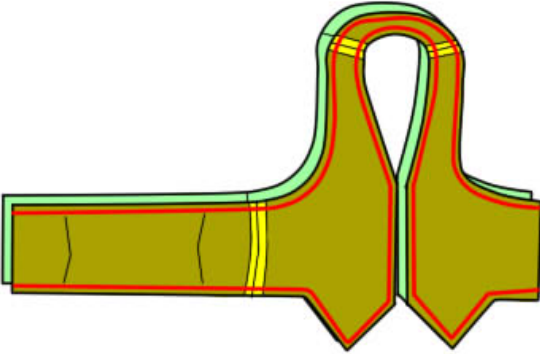
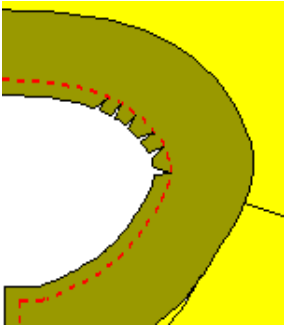
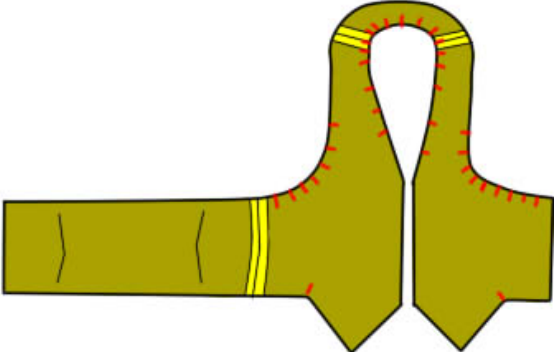
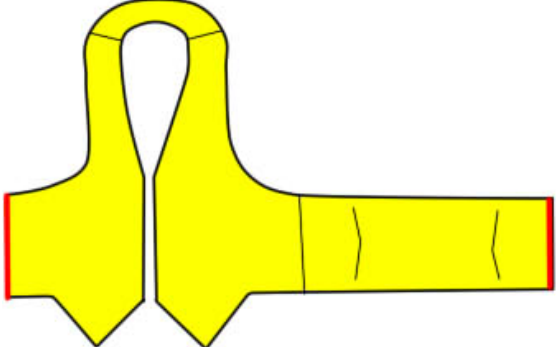
なのでかうときは薄地用とかかれたものを選べば間違いないと思います。

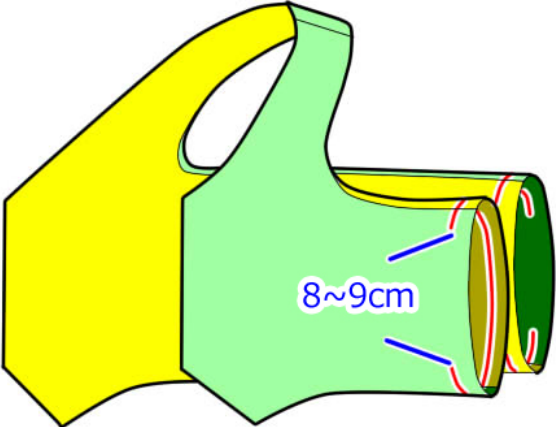
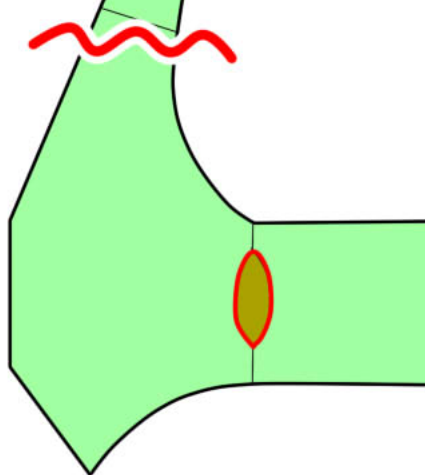
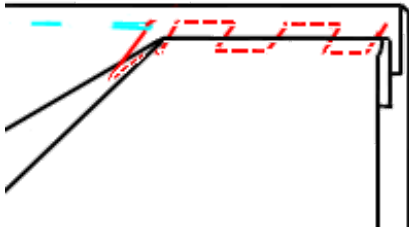

かかれていない場合は店員さんに聞くと教えてくれますよ。

紙(不織布)タイプと布のタイプが売られていた場合、布のニットタイプを選ぶと使える幅が広いので残っても他のものにも使いやすいですよ

 <p>布の印のつけ方や接着芯の貼りは縫う前の下準備で詳しく説明しているよまだ見たことがない人は先に見てね!</p> <p>→ 縫う前の下準備</p>	<p>■ 表 ■ 裏 ■ 接着芯</p> <p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。 型紙に指定された場所の裏に接着芯を貼ってください。 お洋服に模様や刺繍を入れたい場合はこの時点で入れておくと楽です。</p>
	<p>型紙にある複数の線は簡単に丈を変更できるように書いてあります。 型紙を体に当てて自分の作りたいイメージに近い線で作ってください。</p> 

 	 <p>後のウエストの調整用のベルトを作ってください。 縫い代を折り、さらに半分に折ってください。</p>
	<p>表に出る片方の先の縫い代を縫ってください。 反対側はダーツの中に隠れるので縫わなくてよい。</p>
	<p>表がえして下を縫ってください 2本作ってください。</p>
 <p>移動カン</p>	<p>片方に移動カンを付けてください。</p>  
	<p>ベルトの端をダーツの中央の1~2mm手前の所に合わせて、端から2mmくらいの所を縫ってください (ダーツの中央から1~2mm離すのは厚み分を考慮して)</p>
	<p>前と後身頃(胴体部分)のダーツ(立体にするためのつまみ)を縫ってください。 ダーツを半分に折ってくの字に縫ってください。</p>

	<p>前見頃に後見頃と後のえりのパーツを表同士が内側になるように重ねてください。 肩と片側の脇を縫ってください。 同様に裏地も同じように縫ってください。</p>  <p>縫い代は広げて折ってください</p>
	<p>表地と裏地を表同士が内側になるように重ねて縫ってください。</p>
	<p>切り込みを入れてください。 切込みを入れず裏がえすと引きつった感じになります。 (試しに切り込みをいれずに裏返してみてください、そうすると意味が分かります)</p> 
	<p>表側に返してください。 アイロンをかけて形を整えてください。</p>

	<p>上の図の赤い部分を縫って下さい。 脇を広げます。 表地の前身頃と後見頃の脇を縫います</p>
	<p>表側にひっくり返して下さい。 ひっくり返したところを手縫いで縫って固定して下さい。</p> 
	<p>端から5mmのところを縫って下さい。 ボタンホールを開けてボタンを付ければ完成です。 ボタンホールの開け方はミシンによって全く違うので、説明書を見てね。</p>